

Book Review



パーシャルデンチャーの基本を押さえた IOD・IARPDの臨床

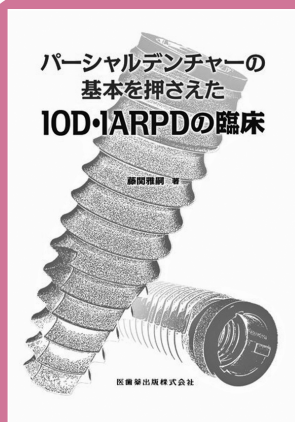
藤関雅嗣 著



Reviewer

山下秀一郎 Shuichiro Yamashita
(東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座)

A4判, 280頁
カラー
定価 26,400円
(本体 24,000円+税 10%)
医歯薬出版刊



■わが国の人口動態

わが国は世界最速で超高齢社会に突入し、その後も高齢者の割合は増加の一途を辿っている。その結果、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を基本的な方向として、口腔の健康と全身の健康の関わりが謳われるようになってきた。補綴治療を行ううえで調和のとれた咬合関係の確立は、口腔の健康を維持するために重要な鍵となる。このような時代背景のなかで、本書は非常に重要な意義をもつ一冊と言える。

■単著である素晴らしさ

本書は単著である。著者のパーシャルデンチャーに関する首尾一貫した考え方が隅々にまでちりばめられている。共著にすることによって、より多くの症例を集めて各著者の考え方をともに主軸となる項目を解説するのも一案である。しかし、本書のようにターゲットを絞ったタイトルの場合には、やはり単著に軍配が上がるのではないだろうか。

■義歯の設計原則

パーシャルデンチャーによる欠損補

綴治療を難しくしているのは、固定性の補綴装置と大きく異なり咬合圧に対する負担様式が多様である点である。もともと支持機能を有していない顎堤粘膜に機能力を負荷し、さらに粘膜の被圧変位量は歯根膜のそれと比べてはるかに大きいことから、正しく機能する義歯を実現するためにはさまざまな工夫がなされなければならない。「動かない」義歯を成立させるためには、支持機能をどこにどの程度設けるのが重要な要件となる。このようにパーシャルデンチャーの設計では、「支持」「把持」「維持」のなかでも「支持」を最初に考える。

本書では、この義歯の原則に関するボリュームが全体の1/3も占めている。後半のIOD・IARPDを語るには、通常のパーシャルデンチャーの設計に関する理解がまず必須であるという著者の理念が感じられる。著者は、歯科大学の臨床教授であり日本補綴歯科学会および日本口腔インプラント学会の指導医である。本書の内容が、歯科補綴学に関する教科書や学会の発行するガイドライン、用語集に記載された内容と見事に合致していることは、大学

人の私が見ても一目瞭然である。

■デジタル技術

CAD/CAM技術が歯科医師国家試験の出題基準に掲載されているのをご存じだろうか？ CAD/CAM技術は、これまではクラウン・ブリッジの臨床のなかで広く普及してきたが、近年この流れは一気に有床義歯やインプラントの臨床にも押し寄せている。著者は、このようなデジタル技術の臨床への応用に関しても第一人者である。それでこそ、精度が高く、かつ安心安全な歯科治療の提供が可能になるのである。

■まとめ

本書のタイトルからアドバンスな内容ではと危惧する方もおいでだろうが、決して難解ではなく、むしろ写真が豊富でわかりやすい構成である。これから臨床を深く勉強しようというドクターには、まさにうってつけである。経験のある臨床医にとっても、痒い所に手が届く内容が随所に見られ嬉しい限りである。読みやすく、わかりやすい好書である。